

つよく・やさしく・心をこめて

三勲小だより



平成30年7月6日（金）

<岡山空襲の学習>

6月25日（月）に、6年生が地域の方から岡山空襲や戦時中の生活についてのお話を聞く会を行いました。この会は6月28日（木）付の山陽新聞朝刊にも掲載されたので、読まれた方もいらっしゃると思います。

当日は、岡山空襲を体験された7人の学区の方がお越しくださり戦時中の苦しい生活や岡山空襲のことなどを詳しくお話してくださいました。はじめに、成田昌士さんが、全員の子どもの前で、食べ物が不自由だったこと、空襲を受けて家族で逃げたことなどをお話くださいました。そして、その後子どもたちが7つのグループに分かれて、お一人ずつを囲んでお話を聞きました。苦しい状況の中、家族で支え合いながら生活していたこと、疎開でつらかったこと、ばらばらと降ってきた焼夷弾のこと、炎の中を一生懸命に逃げたこと、炎が広がり建物が次々に焼け落ちていったこと、多くの方がやけどを負ったり苦しみながら亡くなったりしたことなど、実際に体験された多くのお話をしてくださいました。子どもたちはメモをとったり疑問に思うことを質問したりしながらたいへん真剣に聞いていました。生の声を聞かせていただいたことで、子どもたちは戦争が人々の幸せな生活や大切な命を奪う恐ろしいものであるということを実感したことでしょう。

貴重なお話を聞かせてくださった成田昌士さん、渡邊盛幸さん、三村義人さん、秋山博信さん、



古好秀男さん、阿部洋さん、成田美津穂さんに心よりお礼申し上げます。

土曜参観での公開授業やこの地域の方による学習会の後、6年生は6月29日（金）の「岡山市平和の日」に岡山市民会館で行われた「岡山市戦没者追悼式」に参列しました。全員が戦没者の方々への献花を行い、代表で西崎蒼太さんが壇上で平和都市宣言を朗読し、樋口清佳さんが遺族会の方々の献花補助を行いました。全員たいへん立派な態度で参加し、さすが三勲小の子どもだと感心させられました。来賓や遺族の方々は、戦争のことを若い世代に語り継いでいかななくてはならないということを繰り返し話しておられました。岡山空襲の被害を受けた三勲学区の子どもたちが戦争や空襲について学び、追悼式に参列したことは、たいへん意義深いことだったと思います。保護者の皆様には当日の服装など、たいへんお世話になり、ありがとうございました。

<子どもの感想から>

- 戦争は昔のことで私とはあまり関係ないと思っていたけど、話を聞いて身近で起きていると感じた。平和な戦争のない世の中を自分たちが築いていきたい。
- たくさんの犠牲が出たことで今の平和があると思う。自分たちが聞いたり知ったりした戦争のことを伝えて平和な世の中にしていかなくてはいけないと思った。
- ぼくたちにできることは、戦没者・戦災者の方々の思いを共有し、岡山空襲などの苦労やつらさなどの惨禍がもう二度と起こらないようにすることだと感じた。
- 人間誰もが願う「平和」を自分たちでつくっていくことが大切だと思った。
- 大切な人を亡くしてしまうということがどれだけ苦しいかが伝わってきて、こんなに多くの方が戦争で大切な人を亡くしてしまうようなことが二度とないようにしなければいけないと思った。
- 追悼式に参加して、岡山市が戦争をなくしていこうとしていることがよく分かった。
- 追悼式は私に命の大切さを教えてくれた。一日一日平和に過ごせているのは当たり前じゃないと思った。
- 追悼式は岡山市民にとって一番大切な式だと思った。
- 追悼式には戦争でなくなった人を悲しむ気持ちと戦争を二度としてはいけないという気持ちなどたくさんの思いが込められていることが分かった。私たちには戦争を知り、次の世代に受け継ぐという大切な役割があることをあらためて感じた。



<朝礼の話>

今、サッカーワールドカップでは日本が頑張っていますね。校長先生はこのワールドカップでもう一つ日本のすごさを知りました。

サッカーの試合では、応援する人がたいへん興奮するため、応援席の周りにはいつもごみが散らかるそうです。でも、不思議と日本の応援していた席の周りにはごみが落ちていないそうです。それはなぜですか分かりますか？

試合後、多くの人はそのまま帰ります。でも日本人は、大きなごみ袋を応援の時に持って行き、席の周りを歩き回って自分のごみばかりでなく人が落としたごみも拾って帰るそうです。

この様子を見ていた外国の人は、「なんで、よその人が出したごみを拾うのだろう？」「勝ったからうれしくてしているだけじゃないかなあ？」と思ったそうです。でも、勝っても負けても日本人はごみを拾うのです。ごみを拾っている日本人の姿を見て、世界の人はこんなことを言っています。「ワールドカップで一番好きな場面は日本のファンがごみを拾っているところ。これが私が日本を応援する理由です。」

「日本のファンが、ワールドカップの試合後に座っていたところを掃除している。すばらしいお手本だ。」

世界中の人が見る大会です。選手の活躍だけでなく応援している人のことまでほめられるとうれしくなりますね。

三勲小学校の教育目標の中に「心をこめて」という言葉があります。校長先生は、この教育目標は、今のサッカーのお話と通じるころがあると思います。ごみを拾ったり、今皆さんが頑張っている、くつをそろえたりする姿にはその人の美しい心が表れています。これは、人の出したごみまで拾っている応援団の人と同じです。皆さんにはこれからも心を込めていいことが進んでできる人になってほしいと思います。

<三勲小の紹介>



中庭に芝生が生えそろう子どもたちが休み時間に集まって楽しそうに過ごしています。先日は4年生のお笑い係がコント？を披露して盛り上がっていました。私（校長）がフルーツ（あまりうまくないですが）を吹くこともあります。